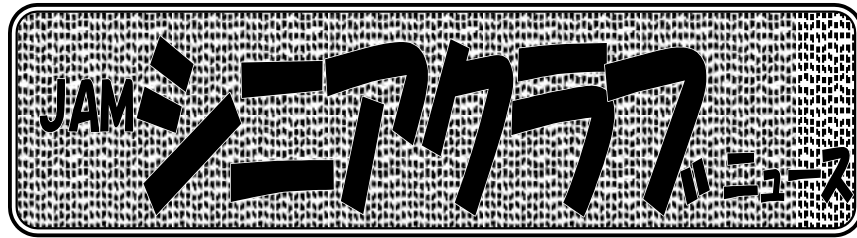


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第213号

発行日 2025年9月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

2026年度定期総会を開催

新会長に宮本礼一氏を選出、2026年度活動方針を承認



役員21人、JAM現役2人、ご来賓3名、オブザーバー1名の70人が出席しました。

開会前、公務で出席が叶わなかった郡山りょう参議院議員のビデオメッセージを上映しました。

冒頭、昨年度中にご逝去された会員に対して黙とうを捧げました。木村副会長の開会挨拶のあと、愛媛の兵頭康宏さん、石川の古田政敏さんが議長団に就任しました。

2026年度(第17回)JAMシニアクラブ定期総会を9月3日、東京・友愛会館大会議室で開催しました。総会には、全国の地方シニアクラブから代議員43人、

最初に大山会長より次の4点にわたって挨拶がありました。①参院選では差別や排外主義を唱える政党が伸長した。改めて民主主義の大切さを訴えていく。②少子化、高齢者医療、介護、高齢者

の生活実態の四つの課題について検討し報告書をまとめた。今後は4人の国会議員と連携し、財源問題を中心に検討していく。③専守防衛、非核三原則、シビリアンコントロールの三原則に基づき取り組みを進める。特に、核を廃絶する取り組みを粘り強く進めていく。④温暖化対策はまったなしである。国や自治体や企業への要求に加えて、自分たちで出来る取組みを運動として行っていく。

ご来賓のJAM・安河内賢弘会長、日本退職者連合・野田那智子会長、基幹労連シニアクラブ・兼子昌一郎会長よりご祝辞を頂き、村田享子参議院議員からは、メッセージが披露されました。

活動報告、会計報告を満場の拍手で確認したあと、議案審議に入りました。

第1号議案「2026年度活動方針案」の審議では、「他産別には組合規約に退職後OB会加入を義務付けている単組もある。高齢者については現役時代から加入してもらう仕組みが必要。」(富山・尾島代議員)、「個人加入の拡大は進んでいるのか。単組シニアの立ち上げについては現役がシニア組織の必要と立ち上げを方針上明確にすべき」(長野・今井代議員)、「シニアクラブの存在が現役に周知されていない。地協や単組に向く地道な活動が必要」(愛知・澤山代議員)との意見表明がありました。本部答弁のあと、採決の結果、2026年度活動方針案は満場一致で承認されました。

第2号議案「2026年度予算案」が承認されたあと、第3号議案で「2026・27年度役員選出」が提案され、満場の拍手で承認。大山会長、木村副会長が退任し、新たに会長に宮本礼一氏(中央)、副会長に箕浦元幸氏(兵庫)が就任しました。その後6期12年会長を務められた大山勝也さんと、7期14年副会長を務められた木村正次さんに、宮本会長より表彰状と記念品が授与されました。



最後に宮本新会長のガンバローを三唱し閉会しました。

主張



JAM運動の歴史の中で、組織内国会議員を通じて、現場で働く者の声が国政に届くことを経験しています。

再スタートを切ることができます。国が昨年9月に公表した日本の高齢者数は3625万人、短時間就労を含めて920万人弱の高齢者が働いており、就労者の7人に1人が65歳以上の高齢者だといわれており、今年中には団塊世代といわれる方々の全てが75歳以上となり、2040年の高齢者率は35%に達すると

予測されています。高齢化の進展は、既に社会問題化している「社会保障費の財源不足」や、「経済活動の鈍化」などが一層顕著になり、その結果多種多様な課題が浮かび上がっています。私たちは、JAMシニアクラブの活動を通じて、高齢者を取り巻く具体的な課題の改善に向けて、丁寧に対応していかなければなりません。私たちJAMシニアクラブは、JAMに結集する現役組合員をはじめ、連合構成組織の仲間の皆さんと共に、高齢化社会を取り巻く課題の解決に向けて、確実に取り組みを進らせていくこととし、高齢社会の当事者として、元気で活力にあふれ、幸せに満ちた第二の人生を手に入れることを運動の基調として、行動を起こしていきたいと考えています。全国の仲間の皆さん、共に頑張りましょう。

JAMシニアクラブ会長 宮本礼一

JAMシニアクラブ会長就任にあたって

JAM定期大会

安河内・岩崎の新体制へ



JAM定期大会は8月28日、29日の2日間、岐阜市「岐阜グランドホテル」で役員、代議員など総勢640人が参加し「新しいJAMに向かって・現場の声ではたらくを変えよう」のスローガンを掲げ開催されました。2026年度・27年度運動方針、2026年度予算案など9本の議案を活発な質疑応答を行ったあと満場一致、賛成多数で承認されました。

また、大会に出席した郡山りよう参議院議員より「94,610という貴重な票をいただき感謝申し上げます。皆さんの現場の声を元に、賃金上がる社会、自由時間が確保できる社会、不安のない社会の実現を達成するために頑張ります」との決意の挨拶がありました。

役員改選が行なわれ、中井書記長ら13人の役員が退

任、安河内賢弘会長と岩崎和人新書記長の体制がスタートしました。

JAMシニアクラブからは大山会長をはじめ中央三役6人が参加しました。

石川 定期総会を開催

古田正敏 事務局長

本年の石川シニアクラブは、津田弥太郎以降9年ぶりのJAM独自候補郡山りよう当選を祝う定期総会となりました。藤川・田中の無念をようやく晴らすことができ、JAMの政策制度活動にも新しい希望の時代がやってきました。

第25回定期総会は、金沢市ANAホリデイ・イン金沢スカイホテルで8月5日に開催され、来賓として本部の大山勝也会長、石川県退職者連合の高芳春会長、JAM石川県連の山下敏弘会長、小松市議会議員木下裕介、加賀市議会議員上田



朋和、北陸労金の西田満明理事長、こくみん共済石川の見木友治小松支所長をお迎えし、役員・代議員を迎え、総勢40名の参加となりました。今年10月に加賀市議会議員選挙に4度目の挑戦をする上田議員からは、地域と産別の課題の提起の後、力強い必勝に向けた挨拶がありました。

総会では、昨年の震災で液状化の被害で家が傾いた内灘近くの金沢市栗ヶ崎に住む全国金属時代の元書記長東茂(90歳)さんから、元気な姿で質問と報告があり、家の補修費用が自然災害共済大型タイプで、満額出て喜んでおられました。地震の復興はこれからが大変とお話がありました。

来賓の挨拶1時間、総会議案30分、総会終了後10階の金沢の街を見晴らせる会場で懇親会を開催、松田代表幹事から大山会長の退任に対して、永年のご苦労に感謝を申し上げました。

石川シニアクラブには、いくつかの課題があります。各単組のOB会活動とベクトルを合わせ、前進できるように取り組んでゆきます。

京都 定期総会を開催

伊藤忠男 通信員

京都シニアクラブは、9月9日京都労働者総合会館において2026年度の第

25回定期総会を開催しました。役員12名・代議員28名が出席、来賓として今年度JAMシニア新会長の宮本会長、JAM京滋の青山執行委員長、夏の選挙で当選された郡山りよう参議院議員の挨拶を頂きました。



天達幸一議長(OBの会オムロン)の議事進行で過年度経過・決算報告。新年度の活動方針・予算。役員選出について審議しました。提案された主な活動方針は①JAMシニアクラブの「四つの理念」「五つの活動指針」を前提に活動を進める。②年金、医療、介護、認知症対策などを中心とした政策制度の取組。③政策研修会の開催。④会員拡大の取組。⑤交流行事取組み等。この活動方針と予算、新年度役員の確認を満場一致で採択、木村正次会長の「がんばろう」で総会を締めくくりました。

核兵器廃絶1000万署名へのご協力を！

JAMシニアクラブは、2026年核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、連合・原水禁・KAKKIN(旧核禁会)の3団体と連携して「核兵器廃絶1000万署名運動」に取り組んでいます。

核弾頭はいまだに世界に約12,120発も存在し、かつ使用可能な核弾頭は増加しており、核兵器の脅威は増大しています。核兵器不拡散条約(NPT)とは核兵器の開発、製造、保有を規制し、核兵器保有国の増加を防ぐことを主目的とした条約であり、核兵器の不拡散、核軍縮の促進、原子力の平和利用をめざしています。

5年に1度開催される核兵器不拡散条約(NPT)の再検討会議は、世界の核軍縮に向けて最大の重みを持つ会議です。世界が核兵器の脅威にさらされている今こそ、世界で唯一の被爆国として核兵器廃絶に向けた1000万署名運動成功のために、JAMシニアクラブの皆さんの絶大なるご協力をお願いします。

核兵器は
いらない。

核兵器廃絶
1000万署名

連合 原水禁 KAKKIN